

市域の温室効果ガス排出量・吸収量の現状について

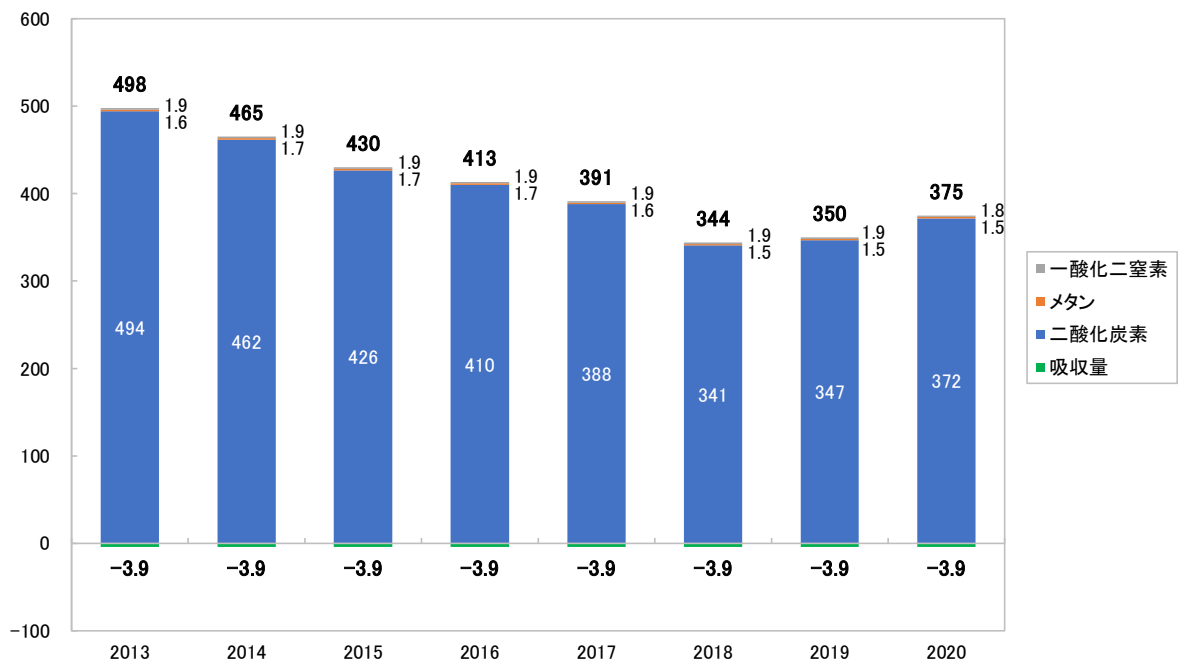
1. 温室効果ガス排出量・吸収量の概況

2013年度から2020年度までの古賀市の温室効果ガス排出量は、減少傾向にある。

2020年度における温室効果ガス排出量（375千t-CO₂）は、基準年度である2013年度と比べて約25%減少している。温室効果ガスの種類別にみると、二酸化炭素が99%を占めている（図1、表1）。

また、森林等による吸収量は年間約4千t-CO₂であり、排出量の約1%の規模である。

(千t-CO₂)



注) 小数点以下の数字を四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

図1 温室効果ガス排出量・吸収量の推移

表1 温室効果ガス排出量（2013年度、2020年度）

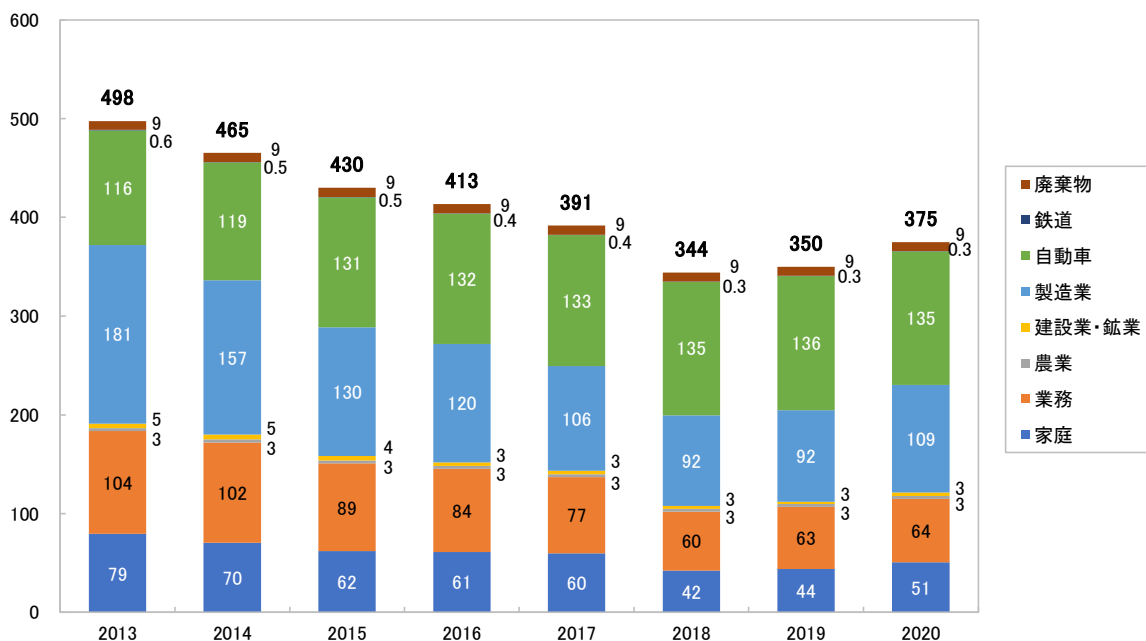
区分	温室効果ガス排出量・吸収量 (千t-CO ₂)		2020年度の ガス別割合	2013年度か らの増減率
	2013年度	2020年度		
二酸化炭素	494	372	99.1%	-24.8%
メタン	1.6	1.5	0.4%	-6.1%
一酸化二窒素	1.9	1.8	0.5%	-3.9%
総排出量	498	375	100.0%	-24.7%
森林等による吸収量	-3.9	-3.9	—	—

注) 小数点以下の数字を四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

2. 部門・分野別の温室効果ガス排出量

温室効果ガス排出量を部門・分野別にみると、家庭部門、業務部門、製造業部門は、エネルギー消費量の減少及び電力の二酸化炭素排出係数の低減効果等により減少傾向にある。一方、自動車部門は、自動車登録台数の増加に伴い増加傾向にある（図 2）。

(千t-CO₂)



注) 小数点以下の数字を四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

廃棄物：二酸化炭素の廃棄物部門（一般廃棄物部門）、メタン及び一酸化二窒素の廃棄物（一般廃棄物の焼却、生活排水処理）の合算

自動車：二酸化炭素の運輸部門（自動車部門）、メタン及び一酸化二窒素の燃料の燃焼（自動車の走行）の合算

農業：二酸化炭素の産業部門（農業）、メタンの農業（水田、農業廃棄物の焼却）、一酸化二窒素の農業（肥料の使用、農作物残さのすき込み、農業廃棄物の焼却）の合算

図 2 温室効果ガス排出量（分野別）の推移

3. 二酸化炭素排出量の部門別割合

古賀市の2020年度の二酸化炭素排出量を部門別にみると、自動車部門が36%を占めており、次いで製造業部門が29%、業務部門が17%、家庭部門が14%、廃棄物部門が2%、建設業・鉱業部門が0.9%、農業部門が0.5%、鉄道部門が0.1%となっている(図3)。

全国(図4)と比較すると、古賀市は全国に比べて製造業部門、家庭部門、業務部門の割合が小さいため、自動車部門の割合が相対的に大きくなっている。

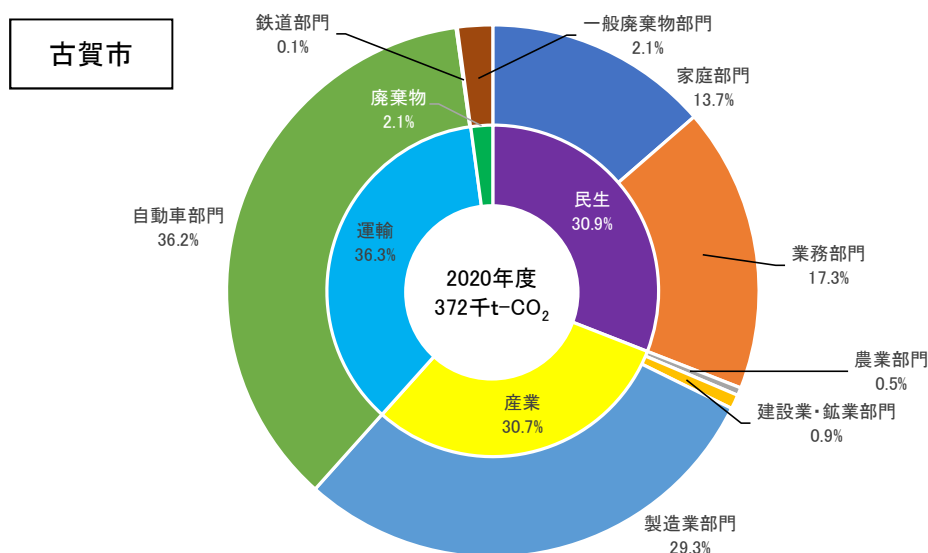
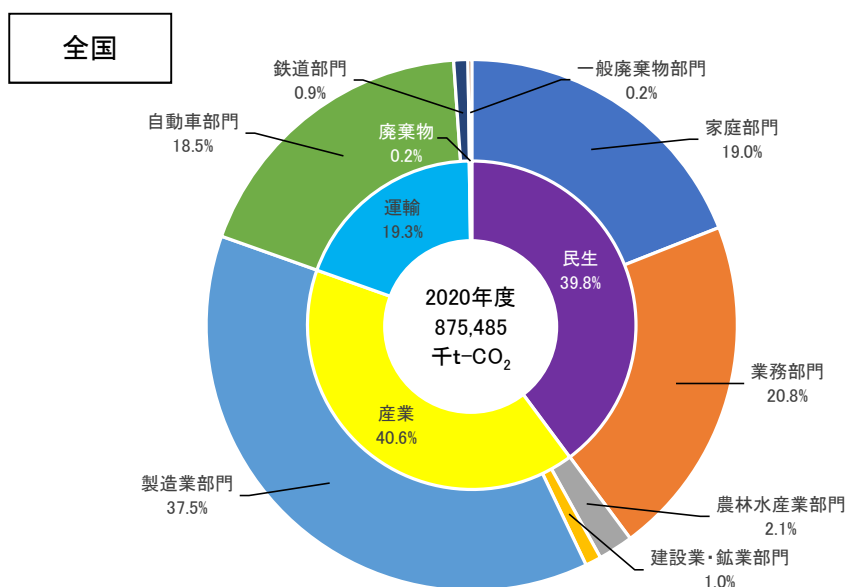


図3 【古賀市】二酸化炭素排出量の部門別割合(2020年度)



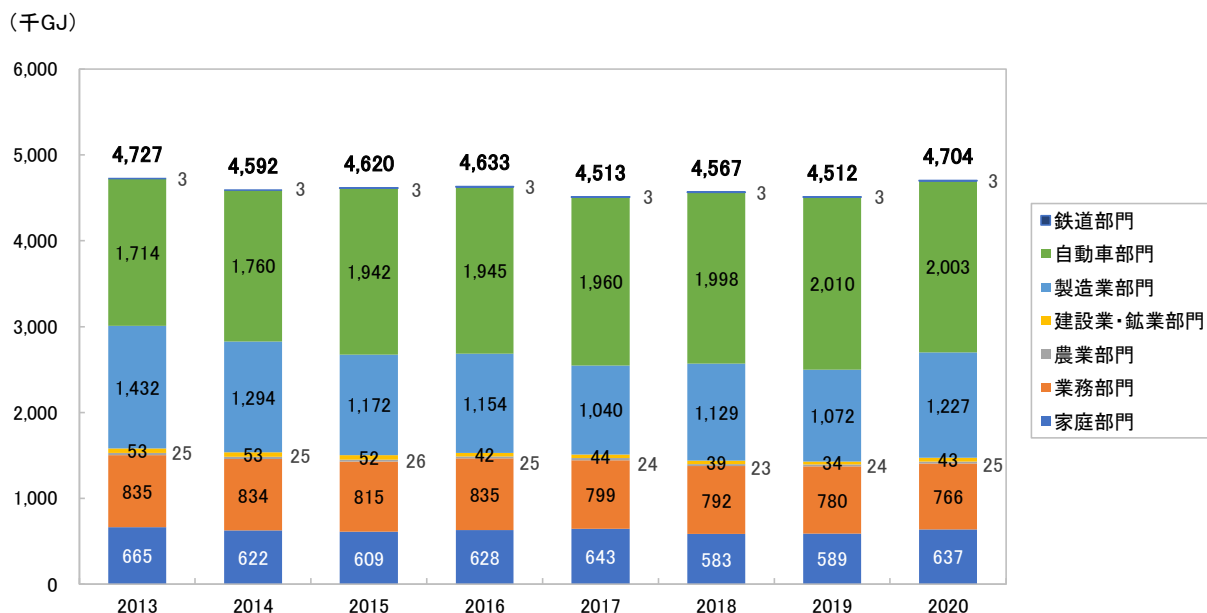
注) 全国のうち、古賀市に関連する部門のみ抽出

図4 【全国】二酸化炭素排出量の部門別割合(2020年度)

4. エネルギー消費量

2013年度から2020年度までの古賀市のエネルギー消費量は、横ばいの傾向にある。

部門別にみると、自動車部門は増加傾向、その他のほとんどの部門は減少傾向となっている(図5、表2)。



注) 小数点以下の数字を四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

図5 エネルギー消費量の推移

表2 エネルギー消費量(2013年度、2020年度)

部門	区分	エネルギー消費量(千GJ)		2020年度の部門別割合	2013年度からの増減率
		2013年度	2020年度		
民生部門		1,500	1,403	29.8%	-6.5%
	家庭部門	665	637	13.5%	-4.2%
	業務部門	835	766	16.3%	-8.3%
産業部門		1,510	1,295	27.5%	-14.2%
	農業部門	25	25	0.5%	+0.7%
	建設業・鉱業部門	53	43	0.9%	-18.4%
	製造業部門	1,432	1,227	26.1%	-14.3%
運輸部門		1,717	2,006	42.6%	+16.8%
	自動車部門	1,714	2,003	42.6%	+16.8%
	鉄道部門	3	3	0.1%	-13.0%
	合計	4,727	4,704	100.0%	-0.5%

注) 小数点以下の数字を四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。